



ズワイガニ（北海道西部系群）

①

ズワイガニは日本以北の海域に広く生息しており、本評価群はこのうち北海道西部日本海に分布する群である。

本系群の漁獲量や資源量等は漁期年（7月～翌年6月）の数値を示す。



図1 分布図

本資源では忍路海山、積丹海山群、および武蔵堆斜面域に漁場が形成される。

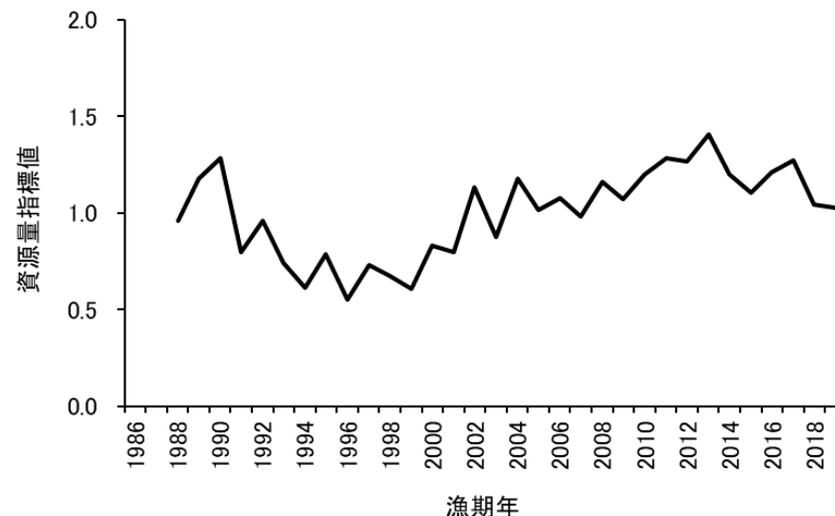


図3 資源量指標値の推移

主にズワイガニにかご漁業（かにかご漁業）で漁獲され、現在は3隻が、かにかご漁業の知事許可を得ている。漁獲量は、1986年は80トンを超えていたが、その後減少し、1988年以降は20～40トン程度で推移しており、2019年は11トン（かにかご漁業：9トン、その他刺網等：2トン）であった。

カニかご標準化CPUE（資源量指標値）は、1980年代末から1990年代後半にかけて低下した後は上昇して、現在は比較的高い水準を維持している。



図2 漁獲量の推移

ズワイガニ（北海道西部系群）

②



図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は2000年～2008年には9,000～15,000カゴ程度で横ばいであったが、2009年以降は6,000～8,000カゴと少なく、2017年～2019年には荒天の影響もあり、3,000～5,000カゴとさらに減少した。2009～2019年の漁獲量は低迷しているが、これは漁獲努力量が減少したことによるものである。

本系群の管理基準値等の検討について

本資源では、日本海北部海域かにかご漁業の標準化CPUEを資源量指標値とした検討を行ったが、当該指標値では漁場により異なるかにかご沈設日数や、休漁期間中の沈設有無、および漁期中の単価変動の影響など、CPUEに影響する漁場別・漁船根拠地別の操業形態の違いを考慮できていない。

上記の資源量指標値は、資源全体の動向を反映した指標値として取り扱うには精度が十分ではないと考えられるため、「漁獲管理規則およびABC算定のための基本指針」に従い計算される管理基準値（資源量水準）案に基づく漁獲管理規則を提案することは困難である。

現在の本資源の漁獲は、主対象種であるベニズワイガニの漁獲に付随したものに過ぎず、今後大きく抑制されている現状の漁獲努力量が増大する懸念が少ないことから、本資源の漁獲管理としては平成19年度から用いている漁獲上限（43トン）の継続を提案する。